

全校の皆さん、おいしい給食の時間ですが、少し校長先生の話聞いてください。

今から11年前、平成23年3月11日 14:46 宮城県沖を震源とするマグニチュード9の地震が発生しました。東日本を揺るがす大きな地震で、特に震源地に近い宮城県・岩手県・福島県で震度7を記録する大きな揺れがありました。

校長先生は、そのとき、喜多方市の小学校の職員室に一人でいました。職員室に置いてある先生方の携帯電話の緊急地震警報の音が一斉に鳴り響いたかと思うと、経験したことの無い揺れが始まりました。大きな揺れで立つこともできず、机につかまっていたのですが、3分以上の長い揺れでした。校舎内から子どもたちの悲鳴も聞こえましたが、動くこともできないのです。

ようやく揺れが収まると、子どもたちの安全確認に校舎内を急いで回りました。幸い、大きな被害は無く、子どもたちも無事でした。そしてテレビを付けて、地震の情報を確認しました。

まず、映し出されたのは、各地の地震の被害状況でした。ビルなどの大きな建物が崩れたり、道路が壊れたり、お店の中がめちゃくちゃになっている映像が映りました。

そして、津波警報が出されました。しばらくすると、大きな津波の映像も映し出され、皆、言葉を失って見ていました。

地震による建物が崩れるなどして被害になった人、津波によって家も何もかもが流された人、命を奪われたと思われる人の情報が次々に入ってきました。そして、消防車の行けないほどの被害にあった地域が大きな火事になっている様子も映し出されました。地震や津波の被害に遭った地域の様子や行方不明になっている家族を探す人の姿、避難所に集まる人の姿などがいつまでもテレビに映し出されました。建物の屋上に上がって助けを求める姿も映し出されました。

1万5千人を超える多くの人の命や財産を奪った地震と津波の恐ろしさをなすすべがありませんでした。今でも行方不明になっている人がたくさんいます。

自然災害の恐ろしさを思い知らされました。その後も、地震が続きました。テレビや携帯電話からは、緊急地震警報が鳴り響き、「命を守る行動をとってください」というアナウンサーの叫び声が流れました。

しかし、福島県では、さらに恐ろしい事態が起こっていたのです。浜通り地方の双葉町と大熊町にまたがる福島第一原子力発電所が、津波の被害で事故を起こしていたのです。電気を起こすための原子炉を冷やすことができなくなり、爆発の危険が高まりました。

福島原発で働く人たちの懸命な努力で、原子炉の爆発はなんとか防ぐことができましたが、体に悪い影響のある「放射性物質」が漏れたり、建物にたまった水素が爆発したりしました。

浜通りの多くの人たちが、今度は、原発事故から避難しなければならなくなりました。

原発事故から出た放射性物質の影響は、まだ続いています。除染と言って、放射性物質を取り去る作業は、11年を過ぎた今でも続いています。何よりも、原発事故の後片付けである廃炉は、まだまだ遠い先まで続くようです。

地震や津波、そして原発事故で、故郷を奪われ、避難生活をしている人はまだいます。また、原発事故による放射性物質への心配から、福島県の農作物が売れなくなるなどの風評被害もあります。家族を失った悲しみは、消えることはないでしょう。

東日本大震災の後、東北地方や福島県を救おうと、日本国内はもちろん、遠く外国からもたくさんの方の支援の品や手が差し伸べられました。がれきりが取り除かれたり、新しい建物が建てられたりして、少しずつ、少しずつ復興に向けた努力が実り、故郷に帰ることができるようになった人もいます。多くの人たちの復興に向けた努力が、今なお続いていることを忘れてはいけません。

今日の午後2時46分、全国各地で被害に遭った人たちを悼んで、黙とうが捧げられます。皆さんは、午後2時30分には下校となりますので、この後、全員で黙とうをささげたいと思います。震災で亡くなった方々のご冥福をお祈りしましょう。